

八街市協働のまちづくり検討会分科会報告書

分科会名	第4分科会		
テーマ	環境・都市計画		
開催日	平成 26 年 5 月 9 日	検討回数	第3回

検討結果概要

1. 今回検討した項目

- ①分科会構成職員(道路河川課、都市計画課、都市整備課、環境課、秘書広報課)の担当業務及び課題の報告
- ②「道路」・「公共交通」・「ゴミ」・「自然」・「その他」の5つの項目について、構成員で現状、課題、解決策等について検討

2. 今回の討議した内容(報告)

- ①担当業務に対する課題と意見
 - ・道路の整備や管理(側溝清掃、樹木剪定等)が追いつかないのが現状。(道路河川課)
→職員だけでは早急な対応が難しい面もある。市民ができるものは市民協働も考えられる。
→苦情の処理だけをしているだけでは市の美化は難しい。砂が堆積しないような抜本的な対策(防砂ネット等の設置)を土地所有者が自覚して行う必要がある。
→側溝清掃でも、行政(市)がやる部分と市民(自治会等)がやる部分の区分がよく分からない。周知が必要ではないか。
 - ・公園の管理について、清掃や除草など日常的な管理は住民に、施設の修理や整備は市が行うことで区分しているが、住民が高齢化して作業が難しくなっている場所もあり、職員と一緒に作業する場面もある。また、ゴミのポイ捨てが多く、職員の見回りだけでは対応できないのが現状。(都市整備課)
→住民が公園をパトロールすることによる効果は大きい。市民に現状を周知すべきでは。
 - ・空き地の除草依頼、河川の水質管理、美しい作田川を守る会を組織している。(環境課)
→ゴミゼロ運動を年2回実施すれば美化が進む可能性がある。
- ②道路・公共交通・ゴミ・自然・その他について意見交換
 - ・提案された意見は別紙のとおり

3. 次回の検討方針

- ・今回検討された各項目について、市民協働可能なものについて手法、手段について検討。

◎別紙

【道路】

- ・ホコリが側溝や道にたまる 事故の原因
- ・道がせまい
- ・安全性の確保
- ・歩道整備、側溝
- ・はみ出し樹木
- ・街灯
- ・地域毎に定期的にパトロールし、枝の張りだし、側溝の機能の確認を市民と協力して改善していく
- ・側溝上の土砂、草等の撤去
- ・行政と市民の責任について
- ・各道路管理者の基本的な管理方法の確認
- ・道路の安全、車の運転手の意識の向上(整備には限界があるのだから)
- ・はみ出している樹木
- ・土ぼこりを防ぐ方法
- ・道路の管理している所
- ・八街の道路は狭い、危険と言われるが、どこがどう危険なのか現状を把握することが大事では

【公共交通】

- ・長期計画の中で、八街駅の上り下り側の高架について
- ・公共交通の活用
- ・JRの利便性の向上
- ・JR駅を中心としたふれあいバスの整備
- ・車がないと不便
- ・コース毎に時間がかかりすぎる
- ・ふれあいバスの利便性が今ひとつ浸透していない気がする
- ・市民と行政が一体となって積極的に利用する仕組みが作れば

【ゴミ】

- ・きれいな住みよい街づくりにつながる意識の改革
- ・ポイ捨て防止などを地域で呼びかける
- ・なぜゴミをポイ捨てするのか？
- ・不満があるから心にゆとりがない
- ・不満がなければポイ捨てしない 捨う
- ・分別の仕方
- ・カラス対策
- ・八街市民ゴミ拾い運動の推進
- ・7万人余りの市民が一日一個ゴミ拾いをすればより美しい街になるのでは
- ・ポイ捨てする気持ちが分からない 意識が低い
- ・ゴミ拾いは自分でも出来そう
- ・カン、ペットボトルの収集
- ・ゴミカゴの設置管理
- ・ゴミゼロ運動の充実
- ・公園の草取り
- ・公園のゴミ、ガラスの破片等の処理

【自然】

- ・あまり広くは知られていない(住民のみ知っている)魅力ある場所があるのではないか？
- ・緑の散策道、水がきれいな所、文化的な所など魅力を広くPRし情報発信、展示機会を増やす
- ・八街にはすばらしい自然環境が数多くあると思う
- ・市民の知っている隠れたスポットを再発見し、それを新たな八街の魅力になれば
- ・公園遊具の整備
- ・地盤の強い土地、安全という価値がある
- ・里山づくり(遊歩道など)、コミュニケーションをとれる施設
- ・花の設置をする
- ・水やり→街のパトロール、あいさつ、コミュニケーション
- ・河川をきれいにしましょう
- ・農業振興(らっかぼっち)とマッチした環境整備
- ・歴史、文化を生かした環境整備

【その他】

- ・移住、定住したくなるようなふるさとづくり
- ・情報収集、公開